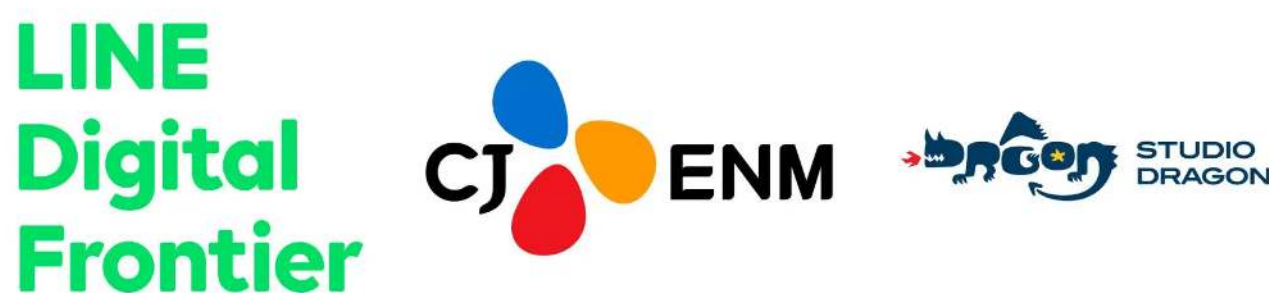


CJENMとスタジオドラゴンとの提携により合弁法人「スタジオドラゴンジャパン（仮）」を設立

2022.05.12 LINEマンガ

LINE Digital Frontier株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：金 俊九（キム・ジュンク））は、CJENMとスタジオドラゴンと提携し、日本国内におけるオリジナルIPの映像コンテンツ市場のエコシステム拡大を目的に、合弁法人「スタジオドラゴンジャパン（仮）」を設立します。



LINE Digital Frontier株式会社は、スマートフォンやタブレットで気軽にマンガ作品が楽しめる電子コミックサービス「LINEマンガ」を、アプリを中心に日本国内で運営しています。

2013年にLINE株式会で開始した同サービスの拡大を目的に、2018年にLINE Digital Frontier株式会社が設立され、2020年には世界最高レベルの電子コミックのノウハウを持つWEBTOON Entertainment Inc.（米国）の傘下に入りました。これにより、運営するサービス「LINEマンガ」は、グローバルでの月間利用者数8,200万、累計ダウンロード数2億超、ひと月の流通額が100億円を超える、同市場で圧倒的世界1位の規模を誇るプラットフォームサービスの連合体“WEBTOON worldwide service”の一員となりました。さらに今年3月には、電子書籍販売サービス「ebookjapan」を運営する株式会社イーブックイニシアティブジャパンを完全子会社化し、両社のサービス「LINEマンガ」「ebookjapan」を単純合算した2021年度の国内流通総額は765億円を超え、日本国内で展開する電子コミックプラットフォームとしては最大になると見込んでいます。また、月間利用者数（MAU）は2,000万を超えます。

スタジオドラゴン（代表キム・ヨンギュ、キム・ジェヒョン）は、コンテンツ企画、開発から資金調達、プロデュースおよび流通に至るまでの全過程を網羅し、179のグローバルIPを保有するアジア最大規模のドラマスタジオです。

2016年にCJENMのドラマ事業本部として設立され、2020年には米国ロサンゼルスに海外支社も設立し、米有数のエンターテインメントパートナーらと共にドラマシリーズを制作しています。2021年のグローバル動画配信サービスの世界ランキングのTOP10には「愛の不時着」「サイコだけど大丈夫」「青春記録」「スタートアップ: 夢の扉」「驚異的な噂」がランクインするなど、斬新ながらも普遍的な面白さを保有する数々のドラマで、全世界のファンを魅了しています。

スタジオドラゴンジャパンは、LINE Digital Frontier株式会社、CJENM、ならびに、スタジオドラゴンが共同で300億ウォン（約30億円）を出資して設立し、今年上半期中に発足する予定です。“WEBTOON worldwide service”に所属するプラットフォームサービスの運営会社が韓国の制作会社と提携し、日本国内に映像ドラマの専門スタジオを設立するのは初となります。

今回の合弁法人設立は、CJENMとスタジオドラゴンの制作ノウハウを基盤に、オリジナルIPのドラマ化など、グローバル展開の加速を目的としています。また、LINE Digital Frontier株式会社が保有するオリジナルIPを、全過程をワンストップで進行するCJENMおよびスタジオドラゴンのノウハウと統合することで、日本国内で制作されたドラマとは差別化したプレミアムコンテンツを生み出し、日本ドラマ市場を革新・活性化させることを目指します。

LINE Digital Frontier株式会社 取締役の金信培（キム・シンベ）は、以下のようにコメントしています。

「今回の合弁法人設立で、コンテンツ大国と呼ばれる日本でオリジナルwebtoon作品の映像化につながるIPのバリューチェーンを作ることができます。日本市場のみならずグローバル市場を狙った完成度の高いドラマを通して、多面的なwebtoon IPの独自性溢れる優良なコンテンツを皆様に広く楽しんでいただくとともに、グローバルプレーヤーとしてのポジションを強化していきます。同時に、既にカテゴリーの代名詞となった、webtoon（スマートデバイスでの閲覧に適した、上から下に読み進める縦スクロール形式のデジタルコミック）を日本でもさらに強化していきますので、日本発のオリジナルwebtoon作品にもご期待ください」

また、CJENMドラマ日本事業総括のカン・チョルグ経営リーダーは、「スタジオドラゴンジャパンは韓国と日本両国内の才能あるクリエイターが相互交流できる重要な拠点であり、競争力のあるコンテンツのグローバル進出ゲートウェイの役割を果たすでしょう。多様なグローバルOTTをはじめとする新しいチャンネルをターゲットとしたプレミアムドラマを制作する予定です」と述べています。

2021年時点で日本は、約1,913億ドルと世界3位のコンテンツ市場規模を誇ります（※1）。一方で、日本のドラマ市場は地上波チャンネルが主導しており、グローバルOTT向けドラマ市場はさらなる開拓が見込める分野であることから、オリジナルIPの強固なエコシステム展開が今後市場に大きな影響をもたらすことが期待されています。

「LINEマンガ」と同じく“WEBTOON worldwide service”に所属する韓国の電子コミックサービス「NAVER WEBTOON」では、『Sweet Home』『地獄』『今、私たちの学校は…』など、webtoon IPを原作とした映像コンテンツがグローバルOTTプラットフォームを通じて相次いで人気を集めており、競争力のあるIPホルダーとして世界的な注目を集めています。

今回の合弁法人設立に伴い、“WEBTOON worldwide service”は、韓国のStudio N、米国のWattpad WEBTOON Studiosと共に、日本国内にも映像スタジオ拠点を持つこととなり、それぞれのローカル言語や文化に基づいた制作ノウハウをさらに強化することが可能になりました。

「LINEマンガ」は、マンガ市場のさらなる発展と活性化を目指し、引き続き様々な取り組みを強化していきます。

※1）米国コンテンツ市場の規模および展望(2015~2024年)/韓国コンテンツ振興院(2020)、海外コンテンツ市場の分析

CJENMは日本で大きなブームを巻き起こしたドラマ「愛の不時着」、「サイコだけど大丈夫」をはじめ、日本版「シグナル」、「未生」、「記憶」、「ボイス」などの自社作品を通じて独歩的な韓国コンテンツ制作会社として日本国内での認知を築いてきました。今回設立するスタジオドラゴンジャパンは、スタジオドラゴン、エンデバーコンテンツ、CJ ENMスタジオズに次ぐCJENMの4番目の制作スタジオとなります。スタジオドラゴンジャパンの設立でCJENMIは韓国、米国、日本にそれぞれ制作スタジオを構築し、良質のIPを確保することで、グローバル競争力を一層高めることができます。

• スタジオドラゴンについて

2016年CJENMのドラマ事業本部が分社して設立されたスタジオドラゴンは、コンテンツ企画、開発から資金調達、プロデュース及び流通に至るまでの全過程を網羅するプレミアム・ストーリーテラグループです。 グローバルプレミアムIP183編を保有しているアジア最大規模のドラマスタジオで、279人の優秀なクリエイターとともに年間30編前後のドラマシリーズを制作し、多様なプラットフォームに流通しています。斬新で魅力的なストーリーで、全世界の韓国ドラマファンから愛されています。完成したコンテンツの輸出のみならず、グローバルスタジオへと成長するため、2020年初めには米LAに海外支社を設立し、米国有数のエンターテインメントパートナーと共にグローバルドラマシリーズの制作に乗り出しています。

• LINEマンガについて



「LINEマンガ」は、スマートフォンやタブレットで気軽にマンガ作品が楽しめる電子コミックサービスです。グローバルでの月間利用者数8,200万、累計ダウンロード数2億超、ひと月の流通額が100億円を超える、同市場で圧倒的世界1位の規模を誇るプラットフォームサービスの連合体“WEBTOON worldwide service”の一員として日本市場で展開しています。2013年に国内でサービスを開始し、現在70万点以上を配信。その中でもLINEマンガでしか読めないオリジナル作品や独占配信作品、先行配信作品を700タイトル以上取り揃えており、幅広い支持を得ています。また、スマートデバイスでの閲覧に適した、上から下に読み進める縦スクロール形式でカラーのデジタルコミック“webtoon（ウェプトゥーン）”の作品にも力を入れています。